

理学療法学科 カリキュラム
〈4 年次〉

分野	教育内容	科目名	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数	時間数	備考	厚生 労働省 基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心 理 学	2	30							2	30		14
		文 学	2	30							2	30		
		自 然 科 学 I	2	30							2	30	物理学・数 学系	
		自 然 科 学 II	2	30							2	30	生物学系	
		英 語	2	30							2	30		
		保 健 体 育	1	30							1	30	講義・実技	
		教 育 学					2	30			2	30		
		情報コミュニケーション学	1	30							1	30		
		統 計 学					2	30			2	30		
	基礎分野	小 計	12	210	0	0	4	60	0	0	16	270		14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解 剖 学 I	4	60							4	60		12
		解 剖 学 II	4	60							4	60		
		解 剖 学 演 習	1	30							1	30		
		生 理 学 I	4	60							4	60		
		生 理 学 II	4	60							4	60		
		生 理 学 演 習	1	30							1	30		
		運 動 学 I	4	60							4	60		
		運 動 学 II			2	30					2	30		
		人 間 発 達 学	2	30							2	30		
		生 体 力 学			2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病 理 学			2	30					2	30		14
		神 経 内 科 学 I	2	30							2	30		
		神 経 内 科 学 II			2	30					2	30		
		精 神 医 学 I	2	30							2	30		
		精 神 医 学 II			2	30					2	30		
		臨 床 心 理 学			2	30					2	30		
		基 礎 臨 床 医 学 I			2	30					2	30	栄養・救急 救命・予防	
		基 礎 臨 床 医 学 II			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨 床 医 学 I			2	30					2	30	外科学・脳 神経外科学	
		臨 床 医 学 II			2	30					2	30	内科学・小 児科学	
		臨 床 医 学 III			2	30					2	30	一般臨床医学	
		整 形 外 科 学 I			2	30					2	30		
		整 形 外 科 学 II			2	30					2	30		
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4
		社 会 福 祉 学			1	15					1	15		
		地域包括ケアシステム論					2	30			2	30	自立支援・ 就労支援及 び多職種連 携含む	
		医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30		
		公 衆 衛 生 学	1	15							1	15		
	専門基礎分野	小 計	33	525	27	405	2	30	0	0	62	960		30

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生 労働省 基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学概論	2	60							2	60		6
		臨床運動学			2	60					2	60		
		発達小児科学			1	30					1	30		
		臨床見学演習	1	30							1	30		
	理学療法管理学	理学療法管理学					2	60			2	60	職場管理、理学療法教育及び職業倫理含む	2
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		6
		理学療法評価学Ⅱ			1	30					1	30		
		理学療法評価学Ⅲ			1	30					1	30		
		動作解析学					1	30			1	30		
		画像評価学					1	30			1	30		
		評価学演習			1	30					1	30		
	理学療法治療学	運動療法学Ⅰ（総論）	1	30							1	30		20
		運動療法学Ⅱ（中枢）			2	60					2	60		
		運動療法学Ⅲ（小児）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅳ（整形）			2	60					2	60		
		運動療法学Ⅴ（呼吸）					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		運動療法学Ⅵ（循環）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅶ（高齢者）					1	30			1	30		
		運動療法学Ⅷ（その他）					1	30			1	30		
		理学療法治療手技論					2	60			2	60		
		物理療法学					2	60			2	60		
		義肢装具学Ⅰ			1	30					1	30		
		義肢装具学Ⅱ					1	30			1	30		
		日常生活活動学			1	30					1	30		
		理学療法学研究Ⅰ					1	30			1	30		
		理学療法学研究Ⅱ							1	30	1	30	卒業論文作成含む	
		理学療法演習Ⅰ	1	30							1	30		
		理学療法演習Ⅱ			1	30					1	30		
		理学療法演習Ⅲ					1	30			1	30		
		理学療法演習Ⅳ							2	60	2	60		
	地域理学療法学	生活環境論					1	30			1	30		3
		地域理学療法学			1	30					1	30		
		福祉用具論					1	30			1	30		
		介護演習	1	30							1	30		
	臨床実習	評価実習			3	120					3	120		20
		地域理学療法学実習					1	40			1	40		
		臨床実習Ⅰ					7	280			7	280		
		臨床実習Ⅱ							8	360	8	360		
		臨床実習Ⅲ							8	360	8	360		
専門分野		小計	7	210	17	540	26	860	19	810	69	2420		57
		総計	52	945	44	945	32	950	19	810	147	3650		101

[illegible]

学 科	理学療法学科 4 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法学研究Ⅱ
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及 び授業内容 との関連性	理学療法士に必要な研究活動の手順を身に着けるため、各々の専門性を持った教員の指導の下、研究の進め方やデータの統計処理、プレゼンテーションの作成等について学ぶ。				
授 業 概 要	各教員ごとに学生を分担し、データ収集、統計処理、考察および研究発表まで指導し、研究論文作成を学習する。				
到 達 目 標	・ 論文の構成と研究進め方について理解することができる。 ・ 収集したデータの統計処理を適切に行うことができる。 ・ 結果と先行研究に基づき、考察を述べることができる。 ・ 科学的・論理的思考の下、論文をまとめることができる。				
成績評価の方法と基準	卒業研究発表内容の評価（70％）・卒業研究活動の評価（30％）				
テキスト・教材等	配布資料、他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	研究データ収集と分析				坂崎浩一 池田耕治 福島芳子 高田理恵子 明瀬敬二 高嶋美和 池田幸広
第 2 回					
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回	統計処理と考察				
第 6 回					
第 7 回	PowerPoint でのプレゼンテーションの作成				
第 8 回					
第 9 回					
第10回					
第11回	卒業研究発表 発表 7 分、質疑 3 分でのプレゼンテーション				
第12回					
第13回					
第14回					
第15回	卒業論文集用原稿の作成				

学 科	理学療法学科 4 年次	教育 内容	理学療法治療学	科目名	理学療法演習Ⅳ
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容及 び授業内容 との関連性	理学療法士に必要な能力を身につけるため、各々の専門性を持った教員の指導のもと、対象者の運動療法を実践するにあたり、必要な動作観察及び分析の方法について学ぶ。				
授 業 概 要	1 年次では「リハビリテーション医療」における身体に関する基本的知識を学び、2 年次では「解剖学」「生理学」「運動学」の 3 教科を臨床に向かうため応用することを学んだ。 3 年次では臨床場面で多く経験する疾患について、理学療法の展開において症例を把握するために、治療場面を想定して思考・実践することを学んだ。 4 年次前期では症例の動作観察及び分析を的確に行い、運動療法・治療に役立てる思考を学ぶ。				
到 達 目 標	理学療法士としての基本的知識技術の確認、および臨床実習に必要な動作観察、分析、指導ができるようになる。				
成績評価の方法と基準		前期：形成的評価（100％） 後期：形成的評価（70％）・筆記試験（30％）			
テキスト・教材等		配布資料			
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	演習① 動作観察及び分析のポイント（身体重心の位置・関節モーメント）について理解し、説明できる。				明瀬敬二
第 2 回					
第 3 回					
第 4 回					
第 5 回					
第 6 回	演習①中枢疾患に対する理学療法についてを理解し、説明できる				明瀬敬二 高嶋美和
第 7 回					
第 8 回					
第 9 回	演習②整形疾患に対する理学療法についてを理解し、説明できる				福島芳子 高田理恵子
第10回					
第11回					
第12回	理学療法士と車いすー構造と機能～嚥下障害対策				非常勤講師
第13回					
第14回	理学療法士とキャリアー就職支援とキャリア教育				〃
第15回					
第16回	代謝・循環:エネルギー代謝や循環機能（運動時の循環動態）について理解し、説明できる。				池田幸広
第17回					
第18回	呼吸：呼吸機能（呼吸筋活動・呼吸調節）について理解し説明できる。				池田幸広
第19回					
第20回	筋：骨格筋の構造や筋収縮のメカニズムについて理解し、説明できる。				明瀬敬二
第21回					
第22回	神経・感覚：神経線維の特徴や感覚器について理解し、説明できる。				池田幸広
第23回					
第24回	消化・吸収・排泄： ①消化・吸収のメカニズムについて理解し、簡単に図示し説明できる。 ②排尿や排泄機構の神経機構について理解し、簡単に図示し説明できる。				池田耕治
第25回					
第26回	血液・免疫：血液の整理や免疫機能について説明できる。 内分泌：ホルモンの名前、作用と分泌器官について説明できる。				福島芳子
第27回					
第28回	病理：炎症、創傷治癒の過程、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを理解し、説明できる				高田理恵子
第29回					
第30回	試 験				

学 科	理学療法学科 4 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅱ
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	実 習	単位数	8	学期・回数	前期：360 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に着けるため、病院・施設などの臨床現場において、実習指導者の指導の下、診療参加型の実習にて、症例の評価・問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授 業 概 要	病院・施設等臨床現場において、対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価などの基本的な臨床の力を学習する。				
到 達 目 標	対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価など実習指導者の十分な指導・助言にて実施し、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力ができる。				
成績評価の方法と基準	・OSCE（客観的臨床能力試験）（50%）・ポートフォリオ（30%）・筆記試験（20%）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
8 週間	期 間：2026 年 5 月 11 日（月）～7 月 4 日（土） 学習内容： - 臨床実習指導者の指導を受けながら、診療参加型の実習において患者の評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施。その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 - 理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 - 患者に対する総合的なリハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。 - 医療人としての態度を身につける。 到達目標：十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたはまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				臨床実習指導者

学 科	理学療法学科 4 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	臨床実習Ⅲ
代 表 講 師	高 田 理恵子（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	実 習	単位数	8	学期・回数	前期：360 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	理学療法士に必要な能力を身に着けるため、病院・施設などの臨床現場において、実習指導者の指導の下、診療参加型の実習にて、症例の評価・問題点の抽出・治療プログラムの立案実施を行う。				
授 業 概 要	病院・施設等臨床現場において、対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価などの基本的な臨床の力を学習する。				
到 達 目 標	対象者の身体的・内面的評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施、その記録と報告、再評価など実習指導者の十分な指導・助言にて実施し、その過程で理学療法士としての未決課題を発見し、解決への努力ができる。				
成績評価の方法と基準	・OSCE（客観的臨床能力試験）（50%）・ポートフォリオ（30%）・筆記試験（20%）				
テキスト・教材等	臨床実習の手引き・実施要項 他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
8 週間	期 間：2026 年 7 月 21 日（火）～9 月 12 日（土） 学習内容： - 臨床実習指導者の指導を受けながら、診療参加型の実習において患者の評価、治療プログラムの立案、具体的な治療の実施。その他記録・報告、再評価等の一貫した治療行為を習得する。 - 理学療法士の管理運営業務を学ぶ。 - 患者に対する総合的なリハビリテーションサービスの中における理学療法の意義を考え、理学療法士の役割と機能を学ぶとともに今後進むべき方向、研究テーマを考える。 - 医療人としての態度を身につける。 到達目標：十分な指導・助言により行動目標に到達できるレベルまたはまたは十分な指導・助言により模倣できるレベルを目標とする。				臨床実習指導者